

## 進捗状況の概要

### 1. 全体評価

本事業はすべて新規立ち上げになるため、平成 27 年度は準備期間として位置づけた。平成 28 年度からのプログラム実施に向けて、全教職員を対象に、大学教育改革および本事業への理解促進と組織体制の確立を図り、おおむね予定どおり準備を整えることができた。

### 2. 事業運営に関する進捗状況

平成 27 年度の課題は、1) 組織体制の確立、2) 広報の開始、3) 学生への経済的支援であった。

1) 組織体制については、新規に「DiCoRes プラス委員会」を設置し、学長（兼大学教育改革委員会委員長）のリーダーシップの下、事業内容 4 グループおよび事業運営 4 グループを各 2～5 名程度で組織化した。各グループに教員に加えて職員も配置することで、教職協働で取り組む体制を整えることができた。平成 27 年度は、「DiCoRes プラス委員会」を概ね月 1 回開催するとともに、「DiCoRes プラス委員会」委員が、AP 既採択校のシンポジウム参加（1 月、北九州市立大学）や、ヒアリング調査（3 月、追手門学院大学）の内容を委員会へ還元することで、他大学の取組の情報や成果が共有される仕組みを学内に作ることができた。なお、本事業を専門に担当する助教 1 名、コーディネーター職員 2 名を新規採用し、本事業推進の実務面での中核となる AP 事務局も合わせて組織した。

2) 広報については、高校生対象「新規事業案内チラシ（10 月、学園祭）」、大学等対象「事業紹介パンフレット（3 月、1,400 部発送）」、新入生対象「基礎プログラム紹介パンフレット（3 月、平成 28 年度入学式ほか）」を作成・活用した。また、大学公式サイト内に本事業サイトを特設した。

3) 学生への経済的支援については、同窓会・教育後援会・保護者会から資金援助が確約され、具体的な金額の調整に入った。

### 3. 各プログラムの進捗状況

1) 基礎プログラム：一ヶ月間行われる 1 年生対象プログラム（平成 28 年度～）。平成 27 年度は、各フィールド関係者との連携強化、現地での生活・活動の安全確保、活動内容の具体化などを行った。

#### 【北遠フィールドスタディ】

フィールド理解と現地住民との関係形成をはかるため、平成 27 年度の演習科目の一部を用いて、地域共創学科 2 年次の授業内で試験的に実施した。5 月より月 1 回の割合で学生と教員が現地訪問を重ね、10 月には学生および教職員が集落の神楽に参加した。さらに、3 月には学生および教職員が現地宿泊を行い、フィールドの現状や生活環境を確認した。現地自治会との協定については、2 月に現地で住民対象説明会を実施し、協定締結の道筋をつけることができた（平成 28 年 6 月に締結完了）。

#### 【フィリピン・ダバオ市フィールドスタディ】

ダバオ市については、11 月・2 月・3 月にそれぞれダバオ市教育局やダバオ日本領事館、公立小学校、日系人学校などを複数回訪問し、事業の説明と協力依頼、現地視察と活動協議をおこなった。ダバオ市教育局との協定については、12 月に協定書案を作成し 1 月に送付、2 月には現地訪問で直接交渉をおこない、顧問弁護士等を交えた最終調整に入った（平成 28 年 6 月に締結完了）。

### 2) 発展プログラム

#### 【自主企画プロジェクト】

学生の希望する場所で活動できるプログラムとして重視し、実施の前倒しを決定した。平成 28 年度前期からの実施に向けて、学生の申請手順と審査方法の決定、関係書類様式の作成などを行った。

#### 【東北被災地フィールドスタディ】

平成 30 年度からの実施に向けて、浜松市人事課および被災地職員派遣経験者へのヒアリング調査（1 月）、教職員による現地視察（3 月、石巻専修大学ほか）を実施し、情報収集に取り組んだ。